

ANNUAL REPORT

2022-2023



公益社団法人
才能教育研究会

才能教育研究会本部事務局

所在地 〒390-8511 松本市深志 3-10-3

TEL 0263-32-7171

FAX 0263-32-7451

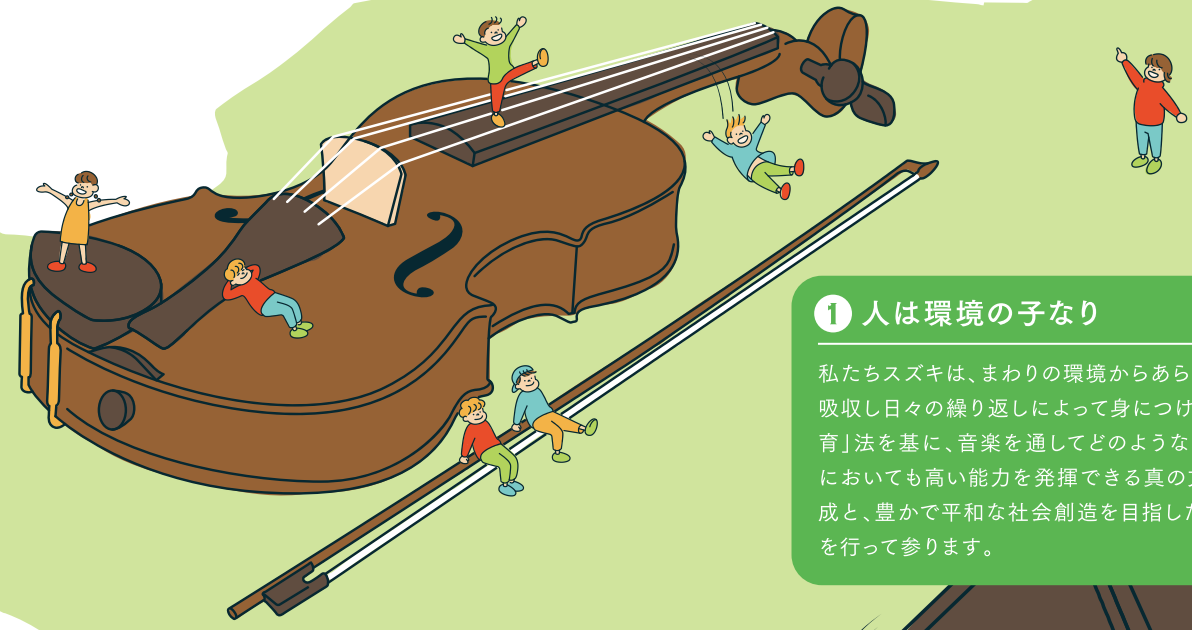
メール talent@suzukimethod.or.jp

WEB <http://www.suzukimethod.or.jp>

音楽を通して心と能力を育む 
Suzuki Method
スズキ・メソッド

どの子ども育つ、育て方ひとつ

スズキ・メソッドは「才能は生まれつきではない」という創始者鈴木鎮一の理念により終戦直後に始まりました。どんな子どもも無限の可能性をもって生まれてきます。愛情をもって導かれ正しい訓練を繰り返すことで高い感性と能力をもった人間に成長できます。75年の実践により、多くの子どもが立派に育ち、豊かな人生を送り世界の平和に貢献してきました。スズキ・メソッドへの共感の輪は世界74の国と地域まで広がり、そして今も拡大を続けています。「質の高い教育をみんなに」国連の掲げる持続可能な開発目標(SDGs)こそスズキ・メソッドが目指す姿です。



① 人は環境の子なり

私たちスズキは、まわりの環境からあらゆるものを吸収し日々の繰り返しによって身につける「母語教育」法を基に、音楽を通してどのような環境・社会においても高い能力を発揮できる真の文化人の育成と、豊かで平和な社会創造を目指した教育活動を行って参ります。

③ 調和した平和な社会創造

私たちスズキは、音楽を通して、美しいものを知り、誠の心を持ち、正しい行いをする人々の集う、調和した平和な社会創造を願い、目指します。



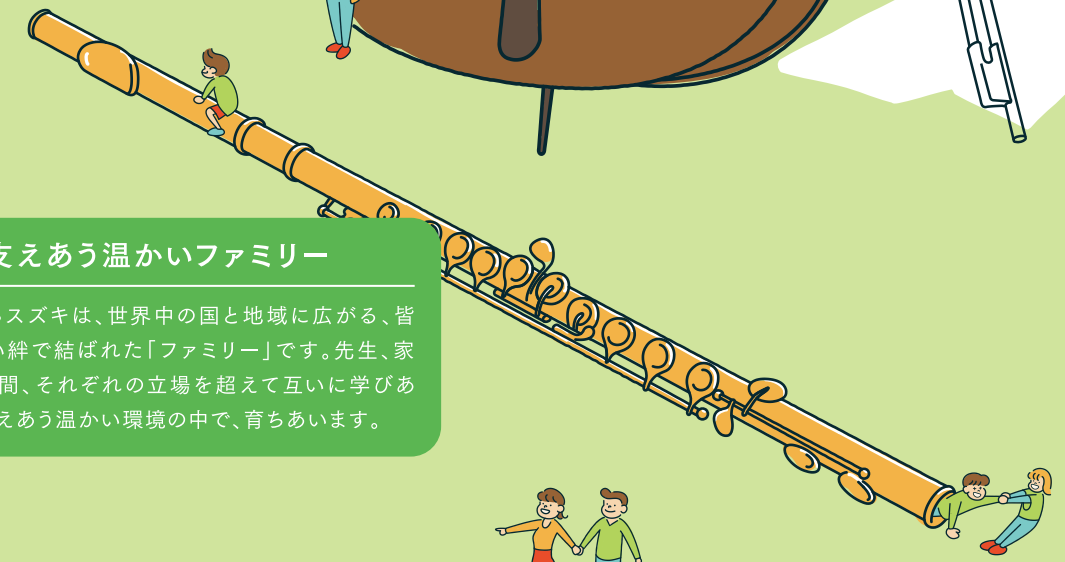
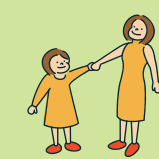
② 真の文化人の育成

私たちスズキは、豊かな心と感性を持つ真の文化人の育成に寄与します。世界の共通言語である音楽、そして楽器演奏の習得を通し、人が生まれながらに持つ大きな力(生命の力)に働きかけ、高い能力と多様な可能性を発揮する素地を培います。



④ 支えあう温かいファミリー

私たちスズキは、世界中の国と地域に広がる、皆が強い絆で結ばれた「ファミリー」です。先生、家族、仲間、それぞれの立場を超えて互いに学びあい、支えあう温かい環境の中で、育ちあいます。



⑤ 次代を見据えた教育法の探究

私たちスズキは、研究を怠らず、より高い教育法を常に探究し続けます。創始者・鈴木鎮一の意志を受け継ぎ、伝えながら、同時に次代を見据え、メソッドの進歩発展にも絶えず取り組みます。

CONTENTS

どの子も育つ、育て方ひとつ	02
会長挨拶	04
年間行事表	05
MAIN ACTIVITIES 2022-2023年の主な活動	06
TOPICS スズキ・メソッドの“母語のように”を脳科学で解明 (東京大学との共同研究)	10
「おうちお稽古」の充実をめざして	12
スズキ・メソッドのDX	16
2021年度 収入と支出の内訳・ご支援のお願い	17
スズキ・メソッド 75年のあゆみ	18
特別講師紹介・世界への拡大	19

会長挨拶



早野龍五

公益社団法人才能教育研究会 会長

1952年生まれ。岐阜県大垣市出身の物理学者(理学博士)、東京大学名誉教授。幼少期に鈴木鎮一に師事。反物質の研究により仁科記念賞、中日文化賞を受賞。2016年より才能教育研究会第5代会長。近著に『「科学的」は武器になる ー世界を生き抜くための思考法ー』(新潮社)。

新しい環境でもスズキ・メソッド

3年間のコロナ禍を経て私たちの思考や行動様式は大きく変わりました。子育てや教育の現場でも大きな変化の波が押し寄せています。私たちスズキ・メソッドは、このような変化の時代においても鈴木鎮一の遺した「どの子も育つ、育て方ひとつ」の信念、その基礎となる母語教育法の確かさを皆様と共有し、未来を担うこれからの子どもたちが一人残らず健全に逞しく成長していける社会をめざしています。

未来志向の新しい試み

昨年度、私たちはスズキ・メソッドの理念と行動を現代の我々の言葉で再度言語化する試みをいたしました。また実績で証明されてきた母語教育法を科学的に解明するための研究を継続しています。更に、忙しい家庭環境の中でも充実した練習ができるよう、本会の特別講師・ベテラン指導者の演奏解説による「お稽古動画」のリリースや、保護者や生徒の皆様との交流充実に向けた様々な新しい試みをスタートしました。

平和な社会は人づくりから

私たちはこれらの取り組みを通して、すべてのご家庭の子どもが平和を希求し実現できる感性と行動力をもった人間に成長することをめざし、これからも日々努力してまいります。

世界の夜明けは子どもから。(鈴木鎮一著「一日一語集」より)

年間行事表

2022



全国指導者研究会 ハイブリット開催 | 6/6 - 9



会員向け新WEBマガジン「Fruitful」配信開始4/1
ヴィオラ研究会(豊田 耕児名誉会長・川本嘉子先生) 4/4

2022.4

甲信地区大会 9/23



ヴァイオリン科研究会 5/2, 2023/1/28
(竹澤恭子特別講師、江口有香特別講師、荻原尚子特別講師)
ピアノ科研究会(東誠三特別講師)5/8
大人のスズキ ピアノコンサート2022
オンライン開催|5/22

夏期学校 オンライン開催 | 7/29 - 8/1



第11期定時総会 8/22

卒業制度 10/1-2023/3/30

国際スズキ協会 (ISA) 理事会 10/15,16

0~3歳児コースシンポジウム研究会
10/23, 2023/3/5

甲信地区第30回スズキデー記念ピアノコンサート
10/23

チェロ科研究会(倉田澄子特別講師) 12/1,2

フルート科研究会(宮前文明特別講師) 12/4

中国・四国地区ピアノ科チルドレンコンサート 12/18

2023.1

スズキ教育法研究会 3/8

スズキ教育法研究会 指導者向け新WEB通信「Tutti」発刊
3/16

ピアノ科卒業式 3/19,21,26,30



関東地区指導者新年研究会 1/9



2023

2022-2023年の主な活動

全国指導者研究会



開催期間：2022年6月5日(日)-9日(木)
開催地及び開催方法：才能教育会館・まつもと市民芸術館 及びオンライン配信(ハイブリッド形式)
参加者数：現地対面約160名 オンライン約370名

対面形式とオンライン配信のハイブリッドスタイルで開催

2022年の全国指導者研究会は本会イベントとして初めてハイブリッド形式で開催しました。技術課題の多いハイブリッド開催を内部スタッフで実現し、準備から当日までのノウハウ蓄積が本会の貴重な財産となりました。プログラム内容はオンラインの利点を最大限活用し、海外在住特別講師とのセッションや、会場講義形式が主体だったピアノ研究を自宅での演奏参加形式にするなど、新しい試みも実現しました。外部専門家の講義や特別講師のコンサート、指導者アンサンブルなど例年通りの充実したプログラムも生涯研鑽を続けるスズキ指導者の糧となりました。



夏期学校



開催期間：ヴァイオリン・チェロ・フルート 2022年7月29日(金)-31日(日) ピアノ 2022年7月30日(土)-8月1日(月)
開催地及び開催方法：才能教育会館・スズキ・メソッド研究所キッセイ文化ホール及び指導者自宅からのオンライン配信(ハイブリッド形式)
参加者数：ヴァイオリン・チェロ・フルート・ピアノ 計約600名



第71回夏期学校を急遽オンラインで開催

2022年の夏期学校はハイブリッド開催前提に準備を進めましたが、コロナ感染の急激な拡大をうけ、開催6日前にオンライン配信のみに切り替えました。これにより参加受付、レッスン配信等すべてを数日で切り替えました。これは自前の受付システム構築や2年間蓄積したオンライン配信技術により実現できたことです。緊急事態にもかかわらず関係者全員のノウハウと協力で混乱なく開催できました。次年度以降の現地対面開催を渴望する声も多く寄せられました。



卒業制度



実施期間：演奏音源提出・2022年10月1日-11月30日
 演奏検定評価・2022年12月1日-2023年2月28日
 卒業式（発表演奏）：2023年3月19日-3月30日（全国4会場およびオンライン配信）
 検定数：ヴァイオリン科（ヴィオラ含）2144本 / チェロ科 212本 / フルート科 28本 / ピアノ科 1294本



各地で4年ぶりに対面で開催

卒業制度は2022年度も音源提出～検定～評定フィードバックが行われ、ピアノ科については卒業証書授与と発表演奏の卒業式が4年ぶりに行われました。この卒業制度は楽器科ごとに初歩曲から難曲までそれぞれ約10曲が設定され、特別講師とベテラン指導者が1本ずつ検定し講評が指導者経由で生徒本人に届けられます。卒業検定では指導成果の確認も行われるので、指導者は生徒がよい演奏ができるよう指導に取り組めます。既に70余年の歴史があり、スズキ・メソッドの卒業課題曲は演奏レベルの基準として定着し、生徒の励みにもなっています。

その他の活動

2022.11.15 各種受賞

公益社団法人才能教育研究会は文化庁から「令和4年度地域文化功労者表彰」を受賞しました。これは、文化庁が全国各地における地域文化の振興に功績をあげた人や団体を対象に行なっている表彰です。永年にわたり、音楽教育を通じて芸術文化の発展に尽力し、地域文化の振興に貢献していることが受賞理由となりました。



文化庁 令和4年度地域文化功労者表彰式



難民化したウクライナのスズキ・メソッドの人々への支援

2022.11 社会貢献

ロシアのウクライナ侵攻により、ウクライナの多くのスズキ・メソッドの指導者、生徒が欧州諸国に身を寄せました。欧州のスズキ・メソッド関係者は自分たちにできる具体的な人道支援として世界のスズキ・メソッドに、難民化したウクライナのスズキ・メソッドの人々への支援を呼びかけました。日本のスズキ・メソッドも多数の関係者が呼応しクラウドファンディングに協力しました。これにより避難先の各地でウクライナの指導者・生徒たちへの支援が継続しています。

2022.10.9 協カイベント

日本のクラシック音楽発信のメッカともいえるサントリーホール前のアークヒルズで9月末から10日間に渡って第12回「ARK Hills Music Week」が開催されました。このイベントにスズキ・メソッドが4年ぶりに参加しました。当日はスズキ・メソッドのヴァイオリン・チェロ・フルートの子どもたちが約100名の観客を前にしてスズキ・メソッド指導曲集から8曲を演奏しました。



ARK Hills Music Week



早野龍五会長(左)と岡村秀人大府市長(右)による、事業協定書締結

2022.12.22 事業提携

本会創始者鈴木鎮一の実家の家業である「鈴木バイオリン製造株式会社」が85年ぶりに創業の地である愛知県大府市に戻りました。これをきっかけに大府市はバイオリンによるまちづくりの推進を進めており、公益社団法人才能教育研究会と大府市は事業協定書を締結しました。大府市はスズキ・メソッドの特別講師である竹澤恭子先生の出身地でもあり、今後さまざまなイベントや事業を通じて関係を発展させていくことが期待されています。

TOPIC

スズキ・メソッドの “母語のように”を脳科学で解明

東大との共同研究

2017年より言語脳科学の第一人者である東京大学酒井邦嘉教授の研究室とスズキ・メソッドとの共同研究が開始されました。母語習得を音楽に応用したスズキ・メソッドの独自性は脳科学ではどのように解明されるのか。その研究結果が、歴史ある英国の脳科学学術誌「Cerebral Cortex(大脳皮質)」で発表をされたことを受け、2021年12月14日に記者会見が行われました。



東京大学大学院総合文化研究科 教授
(言語脳科学・脳計測科学)

酒井邦嘉 先生

主な研究テーマは、言語の脳機能に基づく神経回路の動作原理の解明。
「勉強しないで身につく英語 脳科学による画期的メソッド」他著書多数。

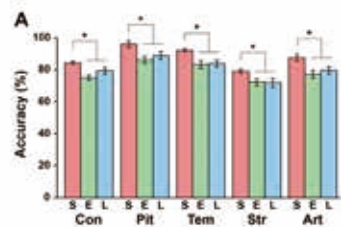
英国の脳科学学術誌での成果発表

楽器を5歳頃より習得してきた中高生は、9歳以降に習得を始めた楽器経験者や未経験者と比較して、音楽判断に対する脳活動が活発になりました。楽器演奏に必要な、音の高さ(音程)はもちろん、テンポ、強弱、アーティキュレーションという4つの条件について、音楽的な判断を司る脳部位が異なることがわかりました。興味深いことに半分の刺激にはエラーがありますが、残りの刺激では全く同一の正しい刺激なのに、テンポに注目するのか、強弱に集中するのか、という聴き方の違いで、必要とされる脳部位が異なることがわかりました。今回、スズキ・メソッドの有効性が最新の脳科学によって初めて裏付けされたこととなります。

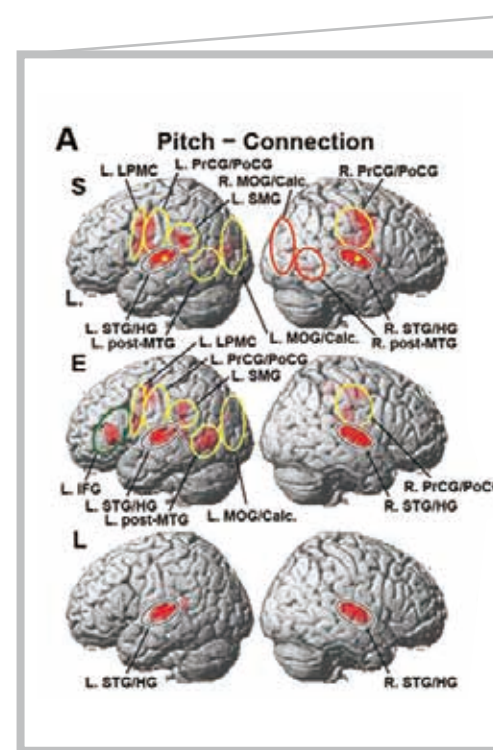
3つの群、Suzuki群の正確さ

12~17歳の総勢98名を3群に分けて調査しました。①Suzuki群(S群)ヴァイオリン前期中等科以降の生徒②Early群(E群)東京大学教育学部附属中等教育学校の生徒で、8歳以前に楽器の習得を始めた人③Late群(L群)同じく付属中の生徒で、9歳以降に楽器習得もしく

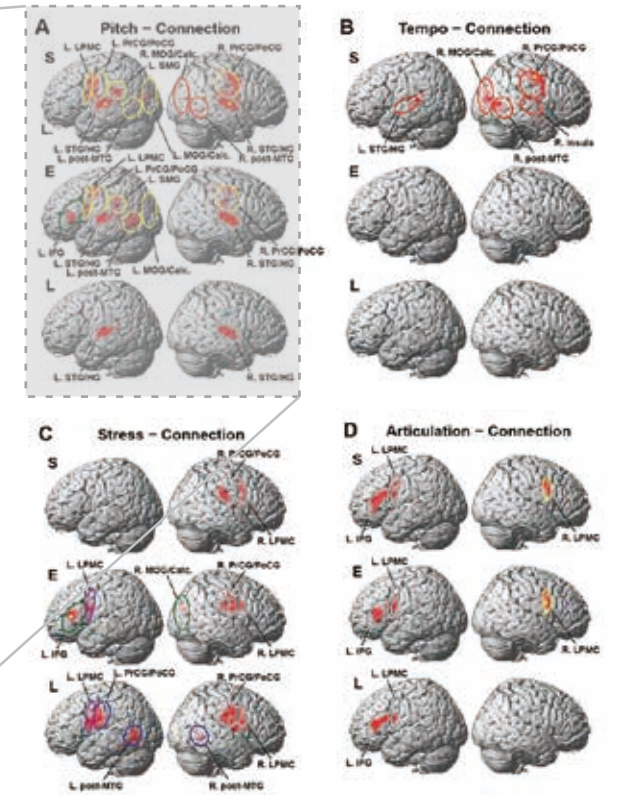
は未経験者。結果として、S群が全ての条件でもっとも正答率が高く、E群とL群にはあまり差異がないことがわかりました。各群のこれまでのレッスン時間と家での練習時間を合計して、平均値と比較すると、S群3900時間、E群は2400時間、L群は720時間です。E群とL群で正答率にほとんど差がないことから、S群の正確さは練習時間だけで説明することができないということがわかります。また、全体的に8割程度の成績ですから、いわゆる「天井効果」で差が見えにくいということもありません。したがって、この正確さはスズキ・メソッドの賜物だと考えられるわけです。



赤がSuzuki(S)群、緑がEarly(E)群、青がLate(L)群。縦軸は正答率(%)で、曲の繋がり、音の高さ、テンポ、強弱、アーティキュレーションにおいて違いをみると、S群がいずれも高い数値を示した。



(A)音の高さ



脳活動が示す音楽判断条件の違い

音楽の脳活動が明らかに

これまでの脳科学では、脳における音楽の神経基盤はよく分かっていませんでした。それが、今回の調査でかなり明らかになりました。3群の違いや、4つの条件のいずれかに選択的な脳活動の上昇が見られたのです。脳の図は(A)音の高さ、(B)テンポの速さ、(C)音の強弱、(D)アーティキュレーションのそれぞれの判断で、左脳(左側)と右脳(右側)のどの領域が反応したかを赤の濃淡で示したものです。(A)音の高さの判断に着目すると、3群ともに共通して、聴覚野(黒い囲みの部分)が活動しました。黄色の丸の部分、S群とE群に共通して見られる部分ですが、音楽経験が乏しいL群では黄色の部分がありません。L群では音の高さの判断に必要な最低限な部分には反応するが、音楽的な部分に関してはあまり反応しないことがわかります。メロディの変化が違和感をもたらすように、音楽経験が脳の反応を高めることがわかりました。



記者会見する酒井邦嘉先生(左)と早野龍五会長(右)

マンスリースズキの解説記事

<https://www.suzukimethod.or.jp/monthly/collabo4.html>



東京大学のプレスリリース

https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/press/z0109_00030.html



音楽と脳科学

今回の研究では、4つの音楽的な要素が特定の脳機能に対応するという切り口を新たに提示しました。今までは、メロディー、リズム、ハーモニーという音楽の三要素に対して、科学的な裏付けがなかったのです。しかも、音楽を聴いている時には脳中が活動する、といったごく当たり前のことしか報告されていませんでした。「音楽」の背後にある「目に見えないもの」を明らかにする研究が実現したのは大事な一歩だと思います。

今後の展望

音楽の表現に対して脳がどのように反応し、その変化を定着させていくかが共有されれば、教育学者や心理学者も大きな関心を寄せてくださるでしょう。そうするとスズキ・メソッドの本質を多くの方が再認識でき、今後さらに深掘りできます。新しい曲はどうやって習得したら良いか。耳で覚えるのが良いのか、楽譜で入る方が良いのか。果たしてその時、脳ではどのような変化が起きているか。日々の練習の仕方まで踏み込みたいと考えています。

母語の習得過程と研究成果

母語の習得過程をモデルケースとして体系的に指導法を発展させたスズキ・メソッドが、人間の脳の機能的基盤からも、人間の自然な習得方法であることがわかりました。その点が重要な一歩となる論文です。このメソッドが全世界に受け入れられる理由が、今回、科学的に明らかになりました。人間が本来持っている能力(A)と、音楽トレーニングによる脳の可塑性で得られる能力(B)の両方が今回初めて確認できました。AもBも音楽に関する能力ですが、言語の習得、文法、読解の能力との関連も示唆でき、重要な一歩です。



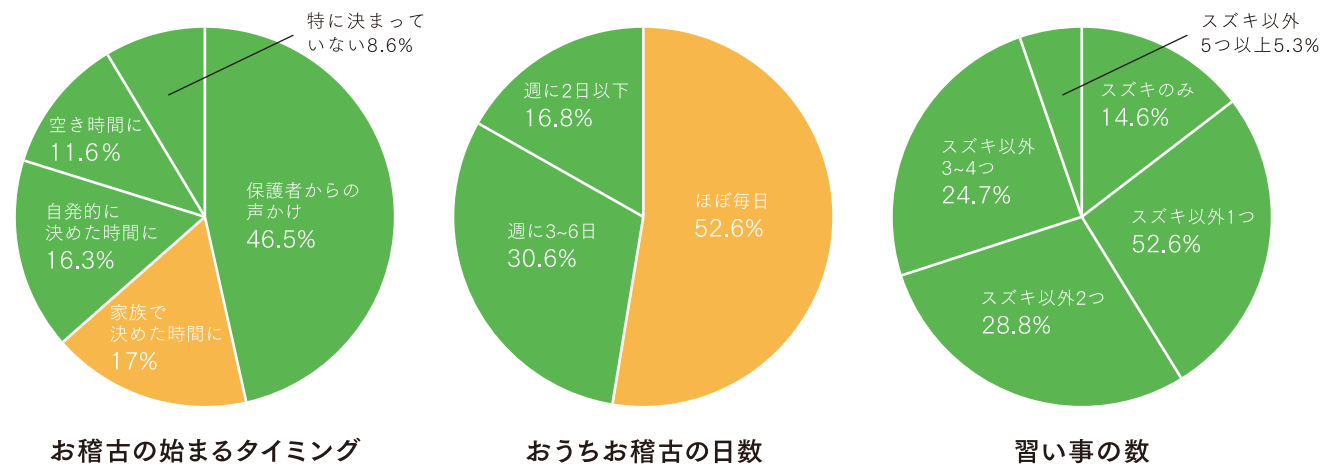
共同研究者
宮前文明 先生

米ピッツバーグ大学精神科 主任研究員
スズキ・メソッド フルーツ科特別講師

「おうちお稽古」の充実をめざして

大切な毎日の繰り返し練習「おうちお稽古」。時間に追われ情報の洪水に翻弄されるご家庭の「おうちお稽古」に焦点をあて、年間テーマとして取り組みました。

スズキ・メソッド保護者アンケートの集計結果



習い事の数と1週間のお稽古日数の関係

習い事の数	お稽古日数		週2日以下 解答数 構成率		週3~6日 解答数 構成率		ほぼ毎日 解答数 構成率		合計
	週2日以下	週3~6日	解答数	構成率	解答数	構成率	解答数	構成率	
スズキのみ	23	23	23	15.9%	23	27.7%	37	44.6%	83
スズキの他に1つ	20	54	20	1.0%	54	35.5%	78	51.3%	152
スズキの他に2つ	23	51	23	22.3%	51	31.1%	90	54.5%	164
スズキの他に3~4つ	27	40	27	25.6%	40	28.4%	74	52.5%	141
スズキの他に5つ以上	5	8	5	34.7%	8	26.7%	17	56.7%	30
合計	98	176	98		176		296		570

習い事の数に関係なく、約半数の家庭ではほぼ毎日音楽のお稽古ができていることがわかりました。

お稽古が始まるタイミングと1週間のお稽古日数の関係

始めるタイミング	お稽古日数		週2日以下 解答数 構成率		週3~6日 解答数 構成率		ほぼ毎日 解答数 構成率		合計
	週2日以下	週3~6日	解答数	構成率	解答数	構成率	解答数	構成率	
保護者が声をかけて	42	101	42	15.9%	101	38.3%	121	45.8%	264
家族で決めた時間	1	18	1	1.0%	18	18.6%	78	80.4%	97
自発的に	21	19	21	22.3%	19	20.2%	54	57.5%	94
空き時間に	17	25	17	25.6%	25	37.9%	24	36.5%	66
特に決まっていない	17	13	17	34.7%	13	26.5%	19	38.8%	49
合計	98	176	98		176		296		570

おうちお稽古をする時間を決めている家庭のほとんどが毎日実践できていることがわかりました。

分析結果: お稽古の「習慣化」は家族の生活リズムづくりから

保護者・生徒の声

多様な「おうちお稽古」の実例



朝晩定時に2回お稽古

久保萌花さん(5歳・ヴァイオリン・愛知県)とご家族

1日2回のお稽古は歳月をかけて習慣化しました。家族で決めたタイムスケジュールで毎日決まった時間にお稽古ができるよう環境を整えています。規則正しい生活をするようになり家族が風邪をひかなくなりました。



やりたい気持ちを大切に

落合美月さん(8歳・ヴァイオリン・宮崎県)とご家族

「いつでも辞めていいんだよ」と話すと「やめたくない!」の一点張り。一週間通して練習すると絵が完成するお稽古ノートや、私もピアノ伴奏を「1000回弾く!」と宣言して奮闘したことなどが、負けず嫌いの性格を引き出して成長してくれました。



自分の上達に気づく、自分の音を築く

中川一惺さん・愛凛さん(13歳・チェロ 7歳・チェロ・北海道)とご家族

自分の上達に気づけるようなポジティブな声かけをしています。親戚の前で披露したりすることが自分の能力を実感するいい機会となっているようです。同世代のチェロ仲間との交流で更に成長してくれると期待しています。



音を出さないお稽古もとり入れています

杉山耕一さん(10歳・ヴァイオリン・神奈川県)とご家族

毎日のお稽古にこだわり母・息子で格闘していました。「週1~2日はオフの日を作っては」と父親の一言。CDを聴くだけ、練習計画をたてるだけ、でもいいと発想転換してみるとうまくいくようになりました。



お稽古は楽しくスモールステップで

村井玲鳳さん(14歳・ヴァイオリン・東京都)とご家族

毎日お稽古、短時間で集中、を念頭に頑張りました。高学年になり自発的に練習する習慣ができました。毎日のお稽古の目標を小さく設定しそれだけはやる、親子で遊びながらお稽古、などの意欲づくりの工夫が続けています。



「得意だ」と思えることが人生を豊かにする

本間凜奈さん(14歳・ピアノ・神奈川県)とご家族

自分で譜読みができるようになったり卒業式で演奏したり、これが自信につながったようです。何かひとつ「これは得意だ!」があれば社会に出て生きる力になると思います。そのためには毎日欠かさずお稽古をする事を最も大切にしています。

家庭で直面するお悩みへの取り組み

各家庭に共通するアドバイス

各家庭における「あるある問題」とベテラン指導者の回答

本人のモチベーションが低く、練習させるのが一苦労です。

気が乗らない理由をお子さんに訊いてみましょう。

曲が難しい、長い、など、負担になっているときは思い切って先生に相談なさるとよいと思います。曲が問題でない場合は、人前で弾く等の身近な目標を作ることや以前の演奏でうまく弾けたときの動画を見てうれしさを呼び起こさせるとやる気につながります。

「わかってる!」と怒り出し、お稽古をやめてしまいます。

親が一生懸命のあまり、素直にきかないわが子に言わなくてよい一言をかけてしまったり... 「練習=親に文句を言われる時間」になってはいませんか?そもそも子どもは反抗しながら育っていくものです。どうしたらうまくなるかではなくどうしたら続けていけるか、そこだけにフォーカスして毎日のお稽古を考えていただければと思います。

保護者の質問と早野会長の回答

お稽古に割く時間のバランスは?

私の家庭ではご飯と同じで毎日やりました。

食事のあとに必ず弾くことが習慣でした。子どもは子どもなりにやらないと気持ち悪い、そういうところまで親がしつけること、これが大事です。いやな時は楽器を出してしまうだけでもいい。とにかく毎日が大切です。もちろん毎日が平和ではありません。母との喧嘩も聞きました。

受験と楽器の両立は可能ですか?

両立されるお子さんも多いようですし、少しお休みして受験後に再開するお子さんもいます。時間は有限です。自分の1万時間を何にどう使うか、自分で考えて判断できるようになることが大切です。私は東京大学を受験するころにはレッスンには通っていませんでした。それは音楽よりも他にやりたいことがあると強く思ったからです。

おうちお稽古に役立つツール

お稽古動画のリリースを開始

2022年は自宅での正しい練習が大切な初歩の生徒向けのコンテンツを全楽器用意しました(スズキ・メソード会員限定公開)。各楽器の特別講師と指導者が検討を重ねスズキ・メソードの生徒が楽しみながら正しく練習できるように工夫した充実した動画シリーズとなっています。



(動画サンプル)

- ヴァイオリン科 指導曲集1巻から及び調弦のしかた … 計6本
- チェロ科 指導曲集1巻から及びおうちおけいこ … 計6本
- フルート科 指導曲集1~3巻から及びおていれについて・じゅんぴたいそう … 計10本
- ピアノ科 指導曲集1巻から及び生徒・保護者の皆様へ他 … 計32本



エゴ・レジリエンス



小野寺 敦子先生

東京都生まれ。1984年、東京都立大学大学院人文科学研究科心理学専攻博士課程修了。心理学博士。現在、目白大学人間学部心理カウンセリング学科教授。著書に『「エゴ・レジリエンス」で、メゲない自分をつくる本〜ego-resilience〜』(一藝社)、『親と子の生涯発達心理学』(勤草書房)、『手にとるように発達心理学がわかる本』『ゼロから教えて発達障害』(ともに、かんき出版)、『小学生のことがまるごとわかるキーワード55』(金子書房)、『パパのための娘トリセツ』(講談社)などがある。

エゴ(現在の自己)、レジリエンス(回復力)は、グッと力が加わったときに元の形や場所に戻る力と考えるとわかりやすいでしょう。エゴ・レジリエンスの機能は「物事への柔軟性」・「好奇心」・「立ち直り力」といった形で発揮されます。これは楽しみながらお稽古をできる工夫にもつながるし、指導者の皆さんが生徒さんの個性に沿ってアイデア豊富な指導を生み出す力ともなります。またエゴ・レジリエンスの高い人は育児が上手でストレスが低く、お稽古の場面でも子どもに自ら進んで練習させることが上手だと思います。日々の生活を見直すことでエゴ・レジリエンスを高めることができます。「急がず、慌てず、諦めず」ですね。



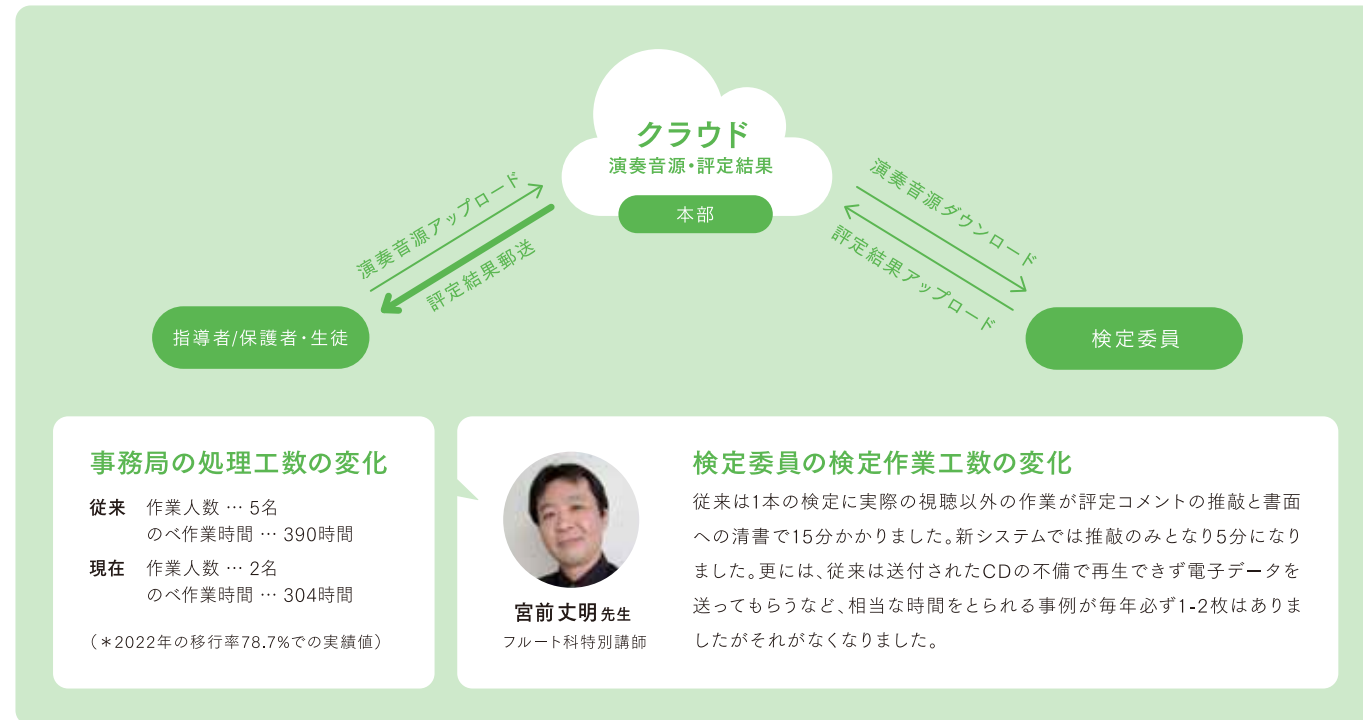
スズキ・メソードのDX (IT技術活用による指導現場や組織運営の進化)

スズキ・メソードでは2020年12月にクラウドベースの新基幹業務システムをスタートしました。2021年～2022年はこの新システム基盤上にイベントや運用に関連した独自のオペレーションシステムを追加し、業務の省力化、内製化、コストダウンを実現しました。またこの新システム基盤を活用し会員(保護者様・生徒様)参加型運営への取り組みも始まっています。

新基幹業務システム活用によるオペレーション進化の実例

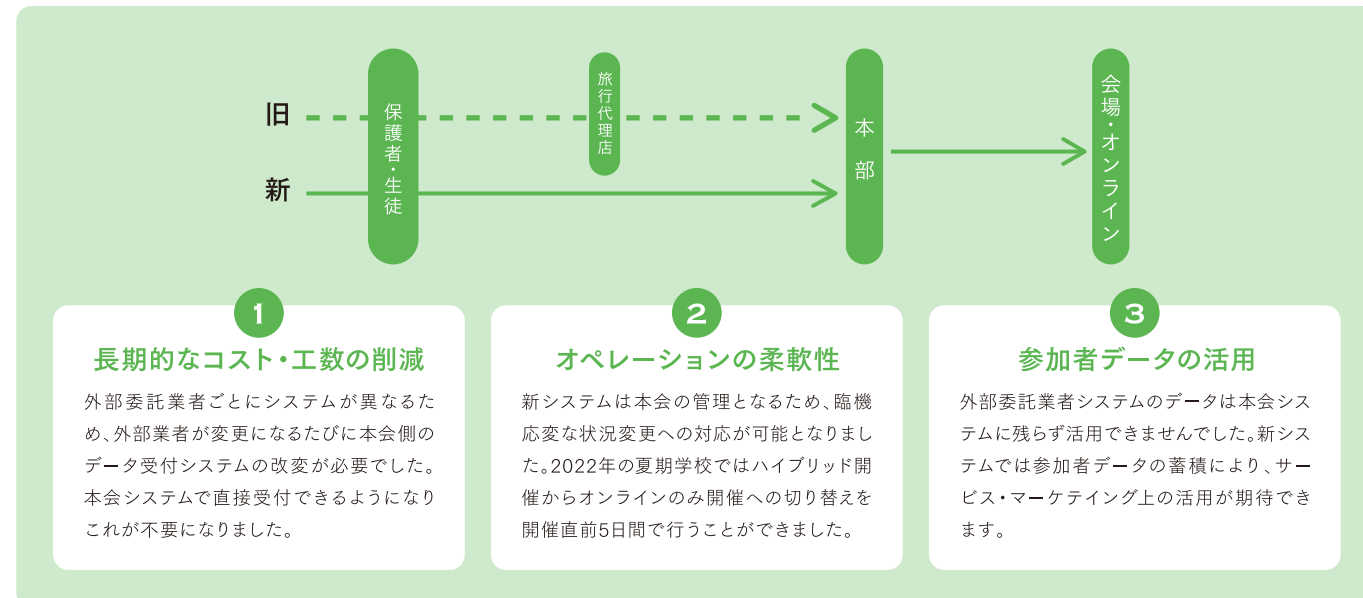
①卒業検定(録音録画データ)受付システム

従来までの工程は、指導者が生徒の演奏音源CDを郵送提出し、検定者はCD再生による検定を行い評価結果や卒業証書が送付されるという流れでした。クラウドベースの受付システムの構築により、演奏音源はクラウドに保管され検定者自身がクラウドの音源にアクセスして検定する流れに変わりました。これにより本部でのCDの仕分け発送作業が不要になりました。

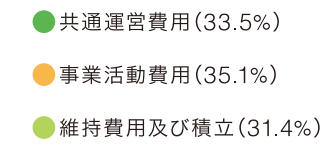
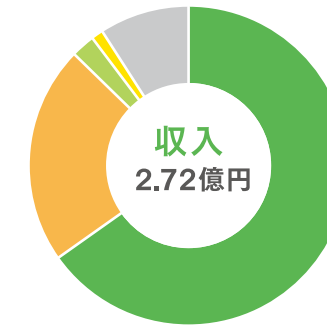
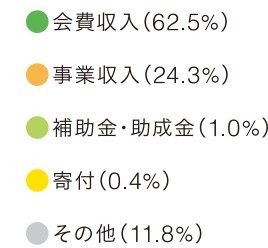


②イベント(夏期学校)受付システム

従来は参加受付を外部委託業者(旅行代理店)のシステムを仲介して行っていたのですが、新システムに保護者(生徒)会員が登録されたことにより、イベント参加の受け付けを直接本会システムで受けられるようになりました。(受付専用システムを基幹業務システム上に構築)これにより下図のような効果を得ることができました。



2021年度 収入と支出の内訳



スズキ・メソードは会員(主に指導者及び生徒保護者)からの会費が収入全体の6割強を占めています。事業収入は夏期学校・全国指導者研究会・卒業検定等の参加費となっています。その他は積立金の取り崩しで2021年度は事務局職員の退職金等で通常年より多くなりました。

スズキ・メソードの2021年度の支出は全体の約1/3が人件費等の共通運営費用でした。残りは35%が夏期学校等の大きなイベント事業に関連した費用でした。2021年度は老朽化した建物物件の将来の改築、グランドコンサート・周年事業への対応として目的積立を多くしたため支出が通常年より大きくなりました。

賃借対照表

<https://www.suzukimethod.or.jp/pdf/2021BS.pdf>



正味財産増減計算書

<https://www.suzukimethod.or.jp/pdf/2021zaisan.pdf>



ご支援のお願い(賛助会員のご案内)



一般会員・個人

本会の目的および事業に賛同し支援をする個人

年額会費 **5,000円**

お支払い方法

入会手続きの際にクレジットカードを登録していただけます。会費は年1回年額を請求させていただきます。



協力会員・法人

本会の目的および事業に賛同し支援をする法人

年額会費 **30,000円(一口)**

お支払い方法

入会手続き後、下記口座まで銀行振り込みでお支払いください。※手数料はご負担願います。

支店名 リソナ銀行松本支店
当座預金 0100439
名義 公益社団法人才能教育研究会

現在の法人賛助会員様

スズキ・メソード幼児教育研究会 / 伊那食品工業株式会社 / 株式会社S.I.E / 株式会社アルファ・ファイブ/鴨居歯科医院(塩尻市)

賛助会員の3つの特典

- 1 会報・機関誌を送付
- 2 本会主催事業への案内状を送付
- 3 会報・機関誌・WEBに法人名を掲載



会長 早野 龍五

皆様のお力添えに感謝いたします。

子どもたちが楽器を通して真剣に打ち込む姿と、できたときの喜びは、大きな人間的成長を促す力となります。私たちスズキ・メソードは、「どの子も育つ」ことを大切に、そして、時代が移っても変わることなく、さらに拡充、発展させたいと願っております。

詳しくは、スズキ・メソードのWEBサイトにて「賛助会員入会のご案内」をご覧ください。



スズキ・メソッド 75年のあゆみ



スズキ・メソッド創始者
鈴木 鎮一

1898年10月17日名古屋に生まれる。市立名古屋商業学校卒業後、1920年に上京、徳川義親侯爵家に寄宿してヴァイオリンを安藤幸(幸田露伴の妹)に師事する。翌年、徳川侯爵の世界一周旅行に同行してベルリンに留学。カール・クリングラーに学び、また相対性理論で有名なアルベルト・アインシュタインからも薫陶を受ける。1928年結婚し帰国。帰国後3人の弟たちと「鈴木クワルテット」を結成、活発な演奏活動始める。1931年ロシアのヴァイオリニスト、アレキサンダー・モギレフスキーらとともに帝国音楽学校を東京に設立し、教授に就任、その後校長となる。1937年頃から江藤俊哉、豊田耕児、小林武史・健次兄弟、鈴木秀太郎、有松洋子らを指導する。1943年長野県木曾福島に疎開。1946年長野県松本市下横田に松本音楽院を開設し、院長に就任。同年才能教育研究会の前身である「全国幼児教育同志会」を結成、1948年に「才能教育研究会」と改称し生涯にわたり会長として同会の発展に尽力した。1996年松本市に鈴木鎮一記念館が開館。1998年1月26日永眠。享年99歳。米ニューイングランド大学ほか世界の9つの大学より名誉音楽博士号・名誉博士号を授与された。英サンデータイムス紙の「20世紀をつくった1000人」の一人。勲三等瑞宝章。松本市名誉市民。

1940年代

1946年(昭和21年) 9月、松本市下横田に松本音楽院創設。鈴木鎮一院長就任。才能教育研究会の前身「全国幼児教育同志会」を結成。

1950年代

1950年(昭和25年) 10月、「社団法人才能教育研究会」が設立認可。
1951年(昭和26年) 長野県霧ヶ峰高原で第1回夏期学校開催。生徒109名と指導者11名が参加。
1955年(昭和30年) 3月、東京体育館での第1回全国大会(現グランドコンサート)に1200名の生徒が参加。
1956年(昭和31年) 第1回全国指導者研究会(松本市郊外)に41名が出席。

1960年代

1964年(昭和39年) 3月、第1回海外演奏旅行。10人の生徒(テン・チルドレン)がアメリカ各地で演奏。
1967年(昭和42年) 8月、松本市深志に才能教育会館落成。アメリカ弦楽指導者協会(ASTA)のメンバー68名が来日し、夏期学校を視察。

1970年代

1970年(昭和45年) 大阪万博の国連デーに1000名の生徒たちが、お祭り広場で祝賀演奏。鈴木会長 勲三等瑞宝章。
1975年(昭和50年) 6月、第1回世界大会をハワイで開催。日本、アメリカ、オーストラリアなどから指導者・生徒・父母870名余が参加。

1980年代

1983年(昭和58年) 7月、第6回世界大会を初めて日本(東京・松本)で開催。世界22の国と地域から1500名が参加。

1990年代

1998年(平成10年) 長野冬季オリンピック記念コンサート「平和への演奏、世界へ響け1000人の子どもたち」に、20数カ国の生徒が出演。(長野市)
1999年(平成11年) 豊田耕児会長就任。

2000年代

2002年(平成14年) 信州大学と研究協力協定を結ぶ。
2004年(平成16年) 第50回記念グランドコンサート(日本武道館)と国際シンポジウムを開催。
2007年(平成19年) スズキ・メソッド 0～3歳児コースがスタート。

2010年代

2008年(平成20年) 中嶋嶺雄会長就任。
2012年(平成24年) 10月、「公益社団法人才能教育研究会」に移行。
2013年(平成25年) 3月、第16回世界大会を松本で開催。日本で4回目の大会に世界36の国と地域から5400名が参加。鈴木裕子会長就任。

2020年代

2017年(平成29年) 早野龍五会長就任。東京大学と共同研究契約を結ぶ。
2019年(令和元年) 11月、ローマ教皇フランシスコ来日時にスズキ・メソッドの生徒、指導者が御前演奏。
2021年(令和3年) 全国指導者研究会、夏期学校を初めて全プログラムオンライン配信で実施。夏期学校が第70回を迎える。
2023年(令和5年) 4月、軽井沢のG7外相サミットで、スズキ・メソッドの生徒が歓迎演奏。

特別講師の紹介

スズキ・メソッドの特別講師は、スズキ・メソッドと縁が深く、国内外の一線で活躍する音楽・教育の専門家です。



東 誠三先生
ピアノ科特別講師
特別講師長



竹澤 恭子先生
ヴァイオリン科特別講師



江口有香先生
ヴァイオリン科特別講師



荻原 尚子先生
ヴァイオリン科特別講師



倉田 澄子先生
チェロ科特別講師



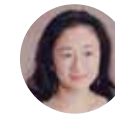
菊地 知也先生
チェロ科特別講師



山本 裕康先生
チェロ科特別講師



宮前 文明先生
フルート科特別講師



白井 文代先生
ピアノ科特別講師



村尾 忠廣先生
0～3歳児コース特別講師

指導者養成、卒業検定、夏期学校・全国指導者研究会での指導、レッスン動画など、スズキ・メソッドの教育の質向上や内外への広報活動を行っています。

世界への拡大



前回のスズキ・メソッド指導者国際会議(2019年10月スペイン・マドリッド)

1960年代より米国・欧州を中心に数多くの学生・研究者が松本市に滞在し鈴木鎮一会長のもとでスズキ・メソッドを学び、自国に戻ってスズキ・メソッドを広めました。現在では74の国と地域で40万人以上がスズキ・メソッドで音楽を学んでいます。世界のスズキ・メソッドの指導者はスズキ・メソッドの継承発展の為に指導者養成や教本教材の充実に常に結束して取り組んでいます。2023年10月には世界のスズキ・メソッドをリードする指導者が松本に集まり将来のスズキ・メソッドのための国際会議を行います。